

第三回「門仲、清澄庭園」散策

2017/11/24

晩秋の好天の下、部員18名にて東京下町「門仲」の散策に出掛けました。

最初に訪れた富岡八幡宮は寛永4年1627年創建で深川八幡様として親しまれている江戸最大の八幡神社との事、鳥居をくぐると「日本一の黄金神輿」に度肝を抜かれ、また「横綱力士像」では幼少のころラジオにしがみついて聞いた吉葉山、照国、千代ノ山の名を見て懐かしく感じ、また力士の手形に自分の手を合わせて2,3倍のあまりの大きさにびっくり仰天です。それから人情深川ご利益通りを



を通り、成田山新勝寺東京別院の深川不動尊を参拝しま

した。本堂の外壁はお不動様の真言に包まれた「真言梵字壁」で仏の力に守護された空間との事です。そろそろお腹が空いてきたので深川名物「あさりの蒸籠めし」を「門前茶屋」で食べましたが大変美味しくまた値段もリーズナブルで好評でした。

門仲より歩いて「清澄庭園」へ当園は

一説には江戸の豪商紀伊國屋文左衛門の屋敷跡と言われ、園内は回遊式庭園で広くて丁度木々の紅葉が見頃で、また冬支度の雪つりと共に池に逆さに映された様は一服の絵を見るようで綺麗でした。また園内には各地の名石「伊豆磯石」「紀州青石」等が池や園内各所に配置され他の庭園とは別格の感じがしたと共にあの大きい石を運んだ先人たちを素晴らしいと思った。庭園浮島で



小休止してから松尾芭蕉が「奥の細道」の出発点「採茶庵跡」を訪ねそして仙台堀川沿



いの芭蕉俳句の散歩道を歩き、知っている俳句を大きな声で吟じたりして一瞬若き文学青年、少女になったかも？そして最終目的地の芭蕉庵史跡公園を訪ねましたが手前の小名木川にかかる万年橋は葛飾北斎の富嶽三十六景に描かれ太鼓橋の下に富士山が見えています。

当公園も隅田川沿いにあ

り一番きれいな清洲橋を芭蕉像と共に展望できる公園です。そして心地よい疲労を感じながら「清澄白河」駅まで戻り、次回の再会を期して解散しました。

三班一同

